# Local Creator Residency Program

## 「国内クリエーター制作交流プログラム」について

TOKASレジデンシーでは、海外のクリエーターだけでなく、日本在住のクリエーター対象のレジデンス・プログラムも実施しています。特定のテーマのもと公募で選ばれたクリエーターは、同じテーマに取り組む「海外クリエーター招聘プログラム」の参加者と対話をしながらテーマを掘り下げ、個別にリサーチ・制作を行います。（2019年度のテーマ「ミュトスの対話」、2020年度のテーマ「都市の祝祭性」）

### プログラムの特長

**国際的な環境**

同時期に、海外からのクリエーターが複数滞在します。さまざまなバックグラウンドを持ったクリエーターと意見を交わし交流することで、異なる価値観と接し、視野が広がることでしょう。

**言葉による**
**プレゼンテーション力の強化**

海外クリエーターとの対話（テーマ・ミーティング）やスタジオ・ビジット、オープン・スタジオでのプレゼンテーションなど、日本語・英語問わず自身の制作・活動コンセプトについて話す機会が多々あります。滞在期間はこれまでの活動について客観的に見つめ直し、今後の展望を考える時間となるかもしれません。

**TOKAS本郷での作品発表**

3ヶ月の滞在制作の後、TOKAS本郷での展覧会（レジデンス成果発表展）への参加が予定されています。滞在終了から展覧会開催まで数ヶ月の準備期間があるため、滞在中は作品完成のプレッシャーを感じることなく、リサーチや制作に時間を充てることができます。

### 次のステップとして……

海外の都市や芸術文化機関と提携し、相互にクリエーターを派遣・招聘する「二国間交流事業プログラム」派遣クリエーターの公募も実施しています。

2020年度提携都市｜バーゼル、ベルリン、ブリュッセル、エディンバラ、ヘルシンキ、ケベック、台北

### 2019年度国内クリエーター制作交流プログラム参加者の感想

レジデンスのアーティスト達と日々対話し、意見を交換できたことはとても有意義な機会でした。滞在中の活動を見ていると、皆、どこかにロールモデル（目標や指標）を探しながら独自の道を模索していることがわかり、励まされました。〈大坪 晶〉

ミーティングや発表の機会の多いレジデンスで、プレゼンにコンプレックスがある自分にとっては大変でしたが、スタッフの方からのアドバイスや、他のレジデントのプレゼンを参考に、次第に自信が持てるようになりました。海外から来たレジデントと一緒に過ごす中で成長できたと思いますし、楽しい経験をして、今後また海外での活動に挑戦したいという動機になりました。〈しまうちみか〉

### Q&A

**Q 「国内クリエーター制作交流プログラム」以外で、日本人が応募できるTOKASレジデンシー滞在のレジデンス・プログラムは？**

A 「リサーチ・レジデンス・プログラム」にご応募いただけます。これまでも、海外や東京近郊以外の国内に拠点を置く日本人クリエーターが複数参加しています。また海外在住者であれば、「海外クリエーター招聘プログラム」への応募も可能です。

**Q プログラムに参加するうえで必要な英語レベルは？**

A 流暢でなくても、自分の意見・考えを伝えられ、意思の疎通が図れれば大丈夫です。

**Q TOKASレジデンシーの見学はできますか？**

A 普段は公開していませんが、オープン・スタジオ中、施設見学ツアーを行っています。

**公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース**
お問い合わせ｜contact@tokyoartsandspace.jp　WEB｜www.tokyoartsandspace.jp/
SNS｜Twitter: [日本語]@tokas_jp [English]@tokas_en　Facebook: Tokyo Arts and Space

2020年3月発行 ©Tokyo Arts and Space　Illustration: MUTO Maiko　Design: MORIGAKI Ken
※掲載情報は2020年3月時点のものです。公募の時期等の最新情報はTOKASウェブサイトをご確認ください。

TOKAS residency
トーキョーアーツアンドスペースレジデンシー
Tokyo Arts and Space Residency

Tokyo Arts and Space

# TOKAS RESIDENCY

東京で世界の
クリエーターと
つながる！

# Artist-in-Residence Program

## アーティスト・イン・レジデンスとは?

「アーティスト・イン・レジデンス」とは、アーティストが一定期間ある土地に滞在し、非日常の空間に身を置いて、異なる文化や人々との交流に刺激やインスピレーションを受けながら、作品の制作やリサーチ活動を行うことを指します。トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)は、そうした滞在活動を支援するアーティスト・イン・レジデンス事業※を、前身のトーキョーワンダーサイト時代の2006年に青山で開始しました。ヴィジュアル・アーティスト、キュレーター、デザイナー、建築家、作曲家など、幅広い分野のクリエーターの派遣と招聘を行い、これまで52の国と地域から、1100人以上がプログラムに参加しています。

※TOKASでは、狭義の「アーティスト」だけでなく、さまざまな創造的分野で活動するクリエーターを受け入れ、支援しているため、「クリエーター・イン・レジデンス」という名称を用いています。

### TOKASレジデンシーについて

2014年に青山から移転したレジデンス施設は、現在、町工場と住宅が混在する墨田区立川(たてかわ)にあります。国技館のある両国まで徒歩圏内で、同じ通りにも相撲部屋があるため、自転車に乗ったり、道端を歩いたりしている「お相撲さん」の姿をよく目にします。また近隣に忠臣蔵ゆかりの場所や伝統職人の工房もあり、江戸の名残が感じられる地域です。

**トーキョーアーツアンドスペースレジデンシー | Tokyo Arts and Space Residency**
住所 | 〒130-0023 東京都墨田区立川2-14-7 1F
TEL | 03-5625-4433　FAX | 03-5625-4434　※イベント時のみ一般公開
菊川駅(都営地下鉄新宿線)A1出口より徒歩9分
森下駅(都営地下鉄新宿線・大江戸線)A5出口より徒歩11分
両国駅(JR総武線:東口/都営地下鉄大江戸線:A5出口)より徒歩15分

— MAP —

## 3ヶ月の滞在の流れ

TOKASでは、1年を3期(5〜7月、9〜11月、1〜3月)に分けてレジデンス・プログラムを展開しています。各クリエーターはそれぞれの期間内で1〜3ヶ月滞在し、リサーチや制作活動を行います。

### 1 MEETING WITH STAFF

**TOKASスタッフとの個別ミーティング**

スタッフが滞在中の活動計画についてヒアリングします。プロジェクトの実現に向けての必要事項を一緒に検討し、知恵を出し合います。

### 2 LUNCH / COFFEE GATHERING

**ランチ/コーヒー・ミーティング(月2回)**

滞在開始後の顔合わせ、その後は近況報告や情報交換の場として定期的に開催しています。過去にTOKASのプログラムに参加した日本人クリエーターや、都内や東京近郊の他のレジデンス施設などにも声を掛け、毎回15〜25名程度が参加。料理好きのクリエーターが、腕を振るってくれることも。

### 3 STUDIO VISIT

**スタジオ・ビジット(各期間に2回)**

キュレーターや第一線で活躍するアーティストを招き、各スタジオ・ブースを回ってクリエーターと個別に面談。クリエーターにとって、展開中のプロジェクトや今後の活動への助言やヒントを得られる貴重な機会です。

### 4 OPEN STUDIO MEETING

**オープン・スタジオ・ミーティング**

各クリエーターがオープン・スタジオでのプランを発表し、レイアウトや必要な機材などについて話し合います。

**オープン・スタジオ**

各期間終盤の週末(金・土・日)3日間で開催。クリエーターは滞在中に展開したリサーチ・制作活動のプロセスや成果を一般に公開します。展示形式での発表だけでなく、口頭でのプレゼンテーションやトークも実施。

### 5 OPEN STUDIO

## これまでの滞在クリエーターのプロジェクト

**フィオナ・アムンゼン**
**Fiona AMUNDSEN**
ニュージーランド/2016年度

東京大空襲のリサーチを墨田区で行い、地元の住民から聞き取りをしたほか、大空襲の痕跡を残す河川や運河を撮影。

**プラパット・ジワランサン**
**Prapat JIWARANGSAN**
タイ/2017年度

日本に暮らすタイ人労働者をリサーチ。不法滞在者として働いていた母を持つ青年にインタビューを行い、映像作品と写真シリーズを制作。

**ジェン・ライマー&マックス・スタイン**
**Jen REIMER & Max STEIN**
カナダ&アメリカ/2019年度

墨田区内の4ヶ所に、それぞれ視覚・聴覚的に馴染むようなサウンド・インスタレーションを制作・設置して記録を撮影した「Sounding the City: Sumida」プロジェクトを展開。

**シモ・ケロクンプ**
**Simo KELLOKUMPU**
フィンランド/2017年度

都内5ヶ所の「場」の動きを読み取ってコレオグラフィ(振付)を起こし、フランスの舞台美術家ヴァンサン・ルーマニャック、漫画家の谷沢直氏とのコラボレーションによるインスタレーション作品《pompom》を制作。